

2月17日（金）4階アセンブリ 9:00～9:40

1 題材名 からだまるごとで

2 題材について

低学年での活動は、音楽する身体をつくる素地になると考えている。からだまるごとで楽しむことや、あそびの中での営みや学びあいが、重要だ。本校では低学年の間、「リクエストによる歌唱活動」「わらべうたあそび」「聴く、聴きあう活動」の3つの活動を中心に置き、年間を通し、帯単元で展開している。

新たに出会うことに喜びを感じ、目をキラキラさせながら向き合う子どもたち。入学当初は、新たな環境に慣れない子や、友だちと折りあいをつけることが難しい子など、集団生活の中で戸惑うことも多かったようだ。徐々にお互いを理解しはじめ、その子らしさを感じることができるようになった2学期。音楽会などの行事もこなし、活動場面でも安心して様子が多くなってきた。3学期に入り、いよいよ進級に向けて意識が出てきているようだ。6年生にお世話してもらっていた立場から、新入生を迎える立場へと徐々に変わってゆく中での本活動になる。本題材においても、たくさんあそぶ活動の中で、様々なことを学びあってほしいと願うとともに、聴くことにも意識をもっていきたい。そのようなからだまるごとで音楽を楽しむ活動を通して、友だちとつながったり、音楽とつながったりしてほしいと願う。

リクエストによる歌唱は、自ら選びそれを仲間に表明することが出来る場がある。選ぶ者とそれを聴き、ともに歌う者との間に柔らかな公共空間が生まれ、歌う心地よさやその子らしさを感じる様子がうかがえる。初めて出会う曲に対しても、友だちの歌声を聴いて口ずさんだり、聴き入ったりすることで新たな気づきが生まれることもある。曲に対する快・不快さも含め音楽経験を広げていくと捉える。

わらべうたあそびでは、子どもたちは、声や息を互いに感じあいながらあそんでいる。活動の中では、子どもたちの様々な表情がうまれてくる。葛藤しながらも、他者と関わって楽しもうとする姿があり、やがて即興的にうまれた作品が、新たなわらべうたとして子どもに定着する場合もある。たっぷりとあそびに浸る場を保障し、活動を繰り返す中での学びあいは、今後の音楽する身体の素地となっていくと考える。

聴く・聴きあう活動は、リズムの応答や、ハンドサインの受け答え、トーンチャイムのリレーなどの活動を通し、からだで聴くことを大切にしている。リズムや声、音をよく聴きあおうとしたり、音の流れをからだで感じたりしながら、学びを深めていく。

3 学習指導計画（6時間目／3学期 全9時間）

1時間目	9時間目
リクエストによる歌唱活動・わらべうたあそび・リズムあそび・ハンドサイン 他	

4 本時について

(1) 本時のねらい

ともだちとともに、見たり聴いたりしながら、音楽することを楽しむ。

(2) 予想される本時の展開

主な学習と予想される子どもの姿	留意点
○リクエストによる歌唱活動 ・元気よく歌う ・この曲好き（嫌い） ・本を見ない ・緊張	本を見ているか 子どもの表情 気持ちよく歌える場
○聴く・聴きあう（リズムの応答など） ・よく見る ・友だちのまねをする難しいな 声に出す	子どもの様子を見ながら、調整する 仲間とともに活動できる場
○わらべうたあそび（選択する・振り返る） ・確かめあう ・教えあう ・協力しない ・うまくいかないな	教師も一緒に 聴きあえる場
○足じゃんけんをする（チョッパー）	

※天候によっては、屋上で活動することもあります。